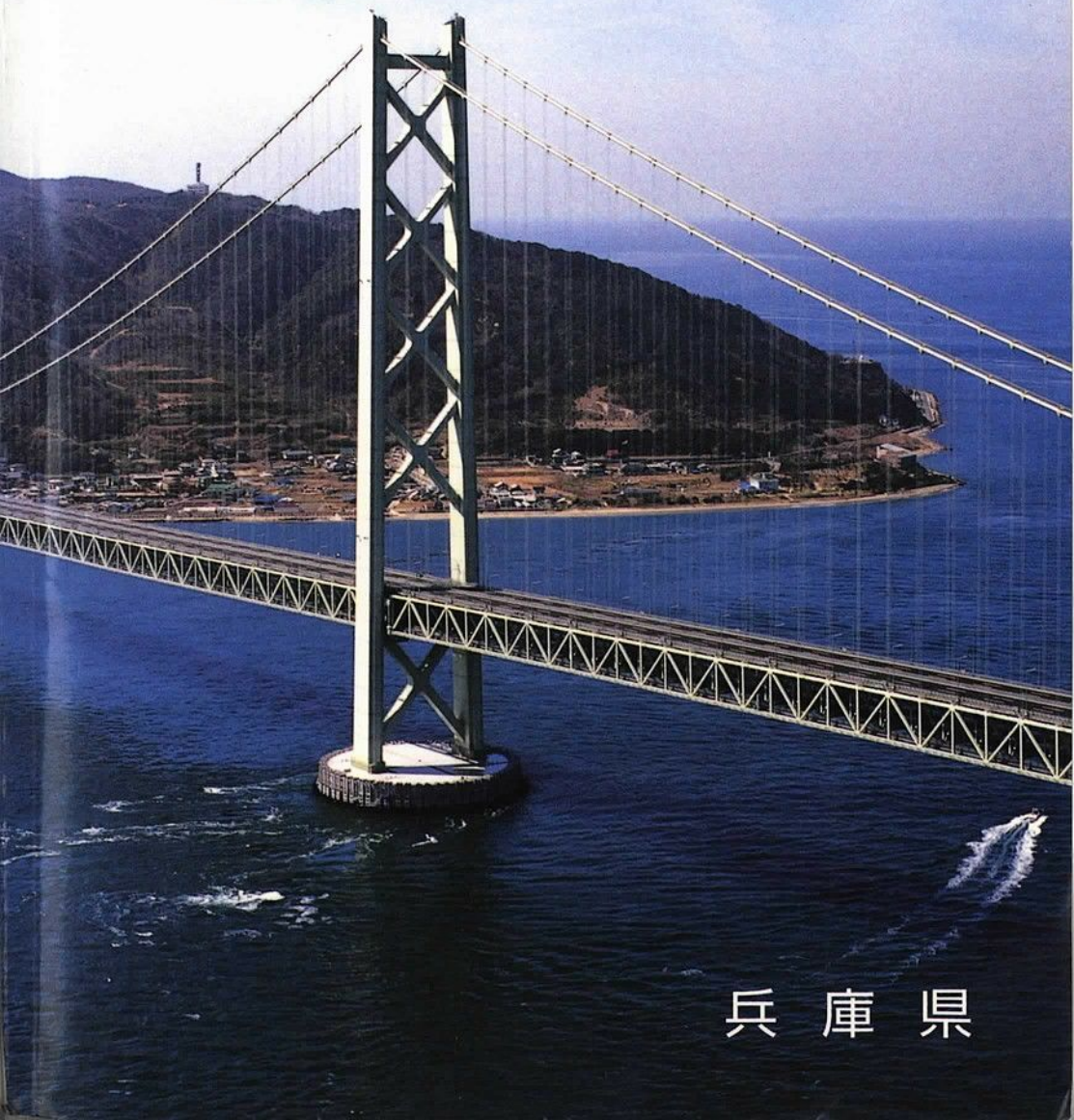


平成10年度版

環境白書



兵庫県

〔表紙〕

明石海峡大橋（パールブリッジ）

明石海峡を跨ぎ、本州（神戸市）と淡路を結ぶ橋長三九一一m、中央支間長一九九一mの世界一の長大つり橋である。

夜のライトアップ時に見られる、真珠の王冠のような美しい姿から「パールブリッジ」の愛称をもっている。

「環境適合型社会」の形成をめざして

地球規模で進む環境問題は深刻さを増し、人類の生存そのものをも脅かす恐れが生じています。21世紀は、まさに「環境の世紀」となりましょう。

美しい自然環境や生活環境は、先人から受け継いだ貴重な財産であり、これらを次代へと引き継いでいくことは、いまに生きる私たちの使命といえます。

いまこそ、「自分たちの環境は自分たちで守る」という確かな意思のもと、一人ひとりが快適さや便利さを優先してきた暮らしや社会のあり方を見直し、自然と共に生きる新しいライフスタイルや社会・経済システムを創造していかなければなりません。

こうした観点から、兵庫県では、昨年12月の地球温暖化防止京都会議の結果を踏まえ、県民・事業者・行政それぞれの具体的な行動プランとなる新しい「兵庫県地球温暖化防止推進計画」の策定に着手するとともに、県自らも事業者として「環境率先行動計画」のもと、環境負荷の低減に取り組んでいるところです。さらに、県下各地域におけるリサイクル運動をはじめとした県民の皆さんによる主体的な環境の保全や創造に向けた取り組みを積極的に支援するなど、「健全で恵み豊かな環境の保全」と「ゆとりと潤いのある美しい環境の創造」に全力をあげています。

この「環境白書」には、兵庫の環境の現状と今後のあり方、そして新たな世紀に向けた取り組みなどを、各分野ごとにわかりやすく取りまとめています。

一人の力は小さくても、手を携えれば大きな力となることでしょう。本白書がより多くの皆様に活用され、環境に適合した社会の形成に向けた実践活動の輪がさらに大きく広がることを願ってやみません。

平成10年11月

兵庫県知事

貝原俊民

11月末配布

目 次

第1部 兵庫県の環境問題の動向と取り組みの概要

第1章 兵庫県の環境問題と環境政策の方向性	3
第1節 兵庫県の環境問題	3
第1 環境問題の動向	3
第2 新たな環境問題の顕在化	4
第2節 環境政策の方向性	5
第1 国等の対応	5
第2 兵庫県の環境政策の新たな方向	5
第3 新たな取り組みの展開	6
第2章 兵庫県における主要な取り組みの概要	8
第1節 社会の構成員すべての参画と協働の推進	8
第1 協力・連携による取り組みの推進	8
第2 各主体の自主的な取り組みの推進	8
第3 環境学習・教育の推進	9
第4 情報の収集、提供と公開	9
第5 経済的手法の活用	9
第6 環境影響評価の推進	10
第2節 循環を基調とする地域環境への負荷の低減	10
第1 大気環境の保全	10
第2 水環境及び地盤環境の保全	11
第3 廃棄物の減量化と適正処理の推進	12
第3節 豊かで多様な自然環境の保全	12
第1 貴重性の高い自然の保全	13
第2 野生生物との共存	13
第4節 ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	13
第1 豊かで多様な美しい環境の創造	13
第2 自然とのふれあいの推進	14

第5節 地域からの地球環境保全の推進	14
第1 地球温暖化防止対策の推進	14
第2 オゾン層保護対策の推進	15
第3 国際協力等の推進	15

第2部 環境の状況

第1章 概 況	19
第1節 地 勢	19
第2節 人 口	19
第3節 土地利用	19
第4節 社会・経済活動	20
第1 産業活動	20
第2 水・エネルギー使用	21
第3 交 通	21
第2章 生活環境	22
第1節 大気汚染（一般環境大気）	22
第1 概 説	22
第2 窒素酸化物	22
第3 光化学オキシダント	24
第4 浮遊粒子状物質	26
第5 硫黄酸化物	28
第6 金属物質等有害物質	29
第7 有害大気汚染物質	32
第8 アスベスト	34
第2節 水質汚濁	35
第1 概 説	35
第2 河川・湖沼	38
第3 海 域	64
第4 海水浴場調査	68

第5節 底質調査	68
第6節 地盤環境（地下水・土壌汚染）	69
第7節 ゴルフ場農薬	78
第3節 騒音	79
第4節 振動	80
第5節 悪臭	80
第6節 自動車公害	81
第1節 概説	81
第2節 大気汚染	81
第3節 騒音・振動等	87
第7節 航空機公害	92
第8節 新幹線公害	95
第9節 廃棄物	96
第1節 概説	96
第2節 一般廃棄物	96
第3節 産業廃棄物	97
第3章 自然環境	98
第1節 地形と気象	98
第2節 植生	99
第3節 野生動物	100
第1節 鳥獣	100
第2節 その他の動物	101
第4節 自然公園	102
第4章 ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	105
第1節 緑・水辺・公園	105
第2節 景観・環境美化	105
第3節 自然とのふれあいの推進	106

第5章 地球環境	107
----------------	-----

第1節 地球の温暖化	107
------------------	-----

第2節 オゾン層の破壊	111
-------------------	-----

第3節 酸性雨	113
---------------	-----

第4節 その他の地球環境	124
--------------------	-----

第1 有害廃棄物の越境移動	124
---------------------	-----

第2 海洋汚染	124
---------------	-----

第3 野生生物種の減少	125
-------------------	-----

第4 熱帯林の減少	125
-----------------	-----

第5 砂漠化	126
--------------	-----

第6 開発途上国での公害問題	126
----------------------	-----

第6章 ロシアタンカー重油流出事故後の環境の状況	128
--------------------------------	-----

第1節 水質環境調査	128
------------------	-----

第7章 ダイオキシン類に係る全域環境調査の状況	130
-------------------------------	-----

第3部 環境の保全と創造に関する施策の実施状況等

第1章 環境の保全と創造の総合的・計画的推進	137
------------------------------	-----

第1節 環境の保全と創造に関する条例の施行	137
-----------------------------	-----

第2節 環境基本計画の策定と推進	137
------------------------	-----

第3節 公害防止計画の推進	141
---------------------	-----

第2章 すべての行動主体の参画と協働の推進	143
-----------------------------	-----

第1節 協力・連携による取り組みの推進	143
---------------------------	-----

第1 さわやかな環境づくり地域行動計画の推進	143
------------------------------	-----

第2 団体などによる環境保全活動の取り組み	144
-----------------------------	-----

第3 ㈱ひょうご環境創造協会による取り組み	154
-----------------------------	-----

第2節	各主体の自発的な取り組みの推進	155
第3節	環境学習・環境教育の推進等	157
第4節	情報の収集、提供と公開	157
第5節	経済的手法の活用（公害除去施設等設置資金融資制度）	159
第6節	環境影響評価の推進	164
第3章	循環を基調とする地域環境への負荷の低減	168
第1節	大気環境の保全	168
第1	概 説	168
第2	窒素酸化物対策	171
第3	光化学オキシダント対策	171
第4	浮遊粒子状物質対策	173
第5	硫黄酸化物対策	173
第6	金属物質等有害物質対策	173
第7	有害大気汚染物質対策	174
第8	アスベスト対策	174
第9	今後の課題	175
第2節	水環境の保全	176
第1	概 説	176
第2	工場・事業場排水対策	176
第3	生活排水対策	178
第4	富栄養化・赤潮防止対策	184
第5	瀬戸内海浄化対策	186
第6	その他の汚染源対策	188
第7	地盤環境の保全（地下水・土壤汚染対策）	190
第8	ゴルフ場農薬による水質汚濁対策	194
第3節	騒音対策	194
第4節	振動対策	195
第5節	悪臭対策	195
第6節	交通公害対策	196
第1	自動車公害対策	196
第2	航空機公害対策	209

第3 新幹線鉄道公害対策	213
第4 今後の課題	213
第7節 廃棄物の減量化と適正処理	217
第1 概 説	217
第2 一般廃棄物対策	220
第3 産業廃棄物対策	225
第4 不法投棄防止対策	233
第5 廃棄物の広域処理	234
第6 環境クリエイトセンター事業の推進	236
第7 今後の課題	237
第4章 自然環境の保全	239
第1節 概 説	239
第2節 貴重性の高い自然の保全	239
第3節 野生生物との共存	243
第4節 自然公園の保全	244
第5節 自然環境保全活動の実践と学習の推進	246
第6節 その他の自然環境保全対策	246
第7節 今後の課題	247
第5章 ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	248
第1節 概 説	248
第2節 ゆとりのある空間の確保	248
第3節 豊かで多様な緑の創出	249
第4節 自然豊かな親しみやすい水辺空間の創造	252
第5節 良好な景観の形成	253
第6節 自然とのふれあいの推進	254
第7節 特色ある地域環境の創造	257
第8節 今後の課題	259

第6章 地域からの地球環境保全	260
第1節 地球温暖化防止	260
第2節 オゾン層の保護	262
第3節 酸性雨対策	273
第4節 その他の地球環境問題への取り組みの推進	273
第5節 国際協力等の推進	274
第7章 共通的・基盤的な施策の推進	276
第1節 調査・研究	276
第1 県立公害研究所	276
第2 県立衛生研究所	280
第3 県立生活科学研究所	282
第4 県立工業技術センター	282
第5 県立中央農業技術センター	273
第6 県立水産試験場	284
第7 県立森林・林業技術センター	285
第8 県立人と自然の博物館	285
第2節 監視・観測等	287
第3節 環境保健対策、公害紛争処理	289
第1 公害審査会	289
第2 公害苦情相談	290
第3 公害健康被害の救済対策	295
第4 環境事犯の取り締まり	298
第8章 ダイオキシン類対策等の推進	299
第1節 ダイオキシン類削減対策	299
第1 発生源対策	299
第2 環境調査	300
第2節 外因性内分泌攪乱化学物質対策	303

資 料 編

1. 環境基準	305
2. 水浴場に係る水質判定基準	319
3. 要請限度	320
4. 法令に基づく届け出状況	321
5. 大気汚染等に関する測定結果等	328
6. 水質汚濁等に関する測定結果等	358
7. 自然環境の現況に関すること	426
8. 環境に配慮した行動の実践度	433
9. こどもエコクラブの活動状況	437
10. 平成9年度年表	438
11. 平成10年度予算	439